

神は「すき間」で働く

婚礼でぶどう酒が足りなくなつた。十分準備していたはずなのに…。

イエスが「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言うので、召し使いたちは、かめの縁まで水を満した。その水はよいぶどう酒に変わった。こうして花婿は面目を保った。ガリラヤで行われた最初のしるしでイエスは栄光を現し、それで弟子たちはイエスを信じた。

教会が組織化され、その活動が行事中心のものになっているさらいがある。教区では司教が中心になり、小教区では主任司祭が中心になって組織ができる。教会委員会や運営委員会、部会やさまざまな会…。役員や委員と呼ばれる人たちは、教会のために、司教のために、司祭のために…はたまた信者のために奔走することになる。神は、

教会がこのような組織になることを望まれたのであろうか。

教会は、いったい誰がつくり、そこでは誰が中心なのか。教会は神によって呼び集められた人たちの集い。教会は神によってつくりられ、そして、その中心は、まぎれもなく神である。



る。だから、そこでは神の望みが実現されていく。

教会は会社や企業ではなく、また学校のようなものでもない。教会は教会であり、この世のどんな組織とも異なったものである。教会は、神が中心となり、神が働かれる「場」なの

である。

小教区創立五十周年を祝った。準備は三年前から始まったが、いわゆる実行委員会ができたのは記念日の半年前。まずは、じっくり時間をかけて福音に耳を傾け、神が望まれる「祝い」はどういったものなのかを探った。「みんなで祝うことが大切であることに気づかされた。」「みんなで祝う」ためにはどうすればいいのか…。具体的に次のようなことが決められた。

教会には一円も残さない。結果。自由献金は予算の三倍もの額が五カ月で集まった。記念日当日は所属信者数をほるかに上回る千人もの人が集まった。食卓には持ち寄りの食べ物があり余るほどに用意された。みんなが喜びで満たされた。神の栄光はわたしたちが綿密に計画し、実行したことの中ではなく、その「すき間」で現される。神の働かれる「すき間」を残しておくこと。

(山元真二福岡教区司祭)

この週の福音

15日・月	マルコ	2・18—22
16日・火	マルコ	2・23—28
17日・水	マルコ	3・1—6
18日・木	マルコ	3・7—12
19日・金	マルコ	3・13—19
20日・土	マルコ	3・20—21